

法匠会報

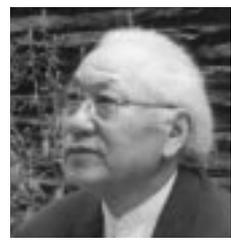
法政大学 工学部 建築学科 同窓会会報

第39号 | 2003年7月10日

発行所 〒184-8584
東京都小金井市梶野町3-7-2
振替口座 1-89264
TEL・FAX (042) 387 6385
法政大学工学部建築学科同窓会
発行人 鬼木 猛
編集人 会報編集委員会

同窓会活動の新たなる 出発点に皆様の力を！

建築学科同窓会会長 鬼木 猛



混沌とした経済情勢、建築界を取巻く厳しい環境のなか、みなさまにはご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、定例常任理事会にて第12代同窓会会長を7人の副会長共々引き受けることとなりました。あらためて、大変な時節に大役をおおせつかり、その任の重さを噛みしめております。

建築学科同窓会の歩みは他学科同窓会にはない諸先生・諸先輩のご指導・ご努力により築かれた前向きで明るく、自由でチャレンジ精神に富んでいます。法政・建築イズムを、これからも時代に対応し、さらにバージョンアップ・前向き思考で活動の継続性と活性化を図り、みなぎるバイタリティと活力で、知恵を出

し合い、一層皆さまのご理解ご協力のもと着実に前進していきたいと思っております。

- 私たちがの方針
- 1：主活動の継続と活性化** 新入生歓迎ウォークラリー、法匠セミナー、新年会、法匠会報・女性ネットワーク・法匠展50等
 - 2：健全財政への取組み** 「同窓会の将来像について」提言の促進(2頁)
 - 3：情報公開システムの促進** 会報発行回数減のリカバリー対応策(発信・受信)副会長・常任理事を含め多彩な人材に恵まれております。また、個々の活動では多くのOBの方々を持ち味を生かしたバックアップをいただいております。特に新入生歓迎ウォークラリーや法匠展50・女性ネットワークなどのサポーターは今までの豊かな情報ネットワークによるものです。これらは建築学科同窓会の独特な活動で他学科同窓会からも羨望的です。これらも維持し続けるための活動を大切に維持し、培われた情報ネットワークの更なる共有化をはかり、より強

固なツールとして情報網造りの促進の場として取り組んで参りたいと思っております。

新執行部

- 会長：鬼木 猛(59年卒・森田)
副会長：中田正二(64年卒・岩下)
統括副会長
同上：小川 格(66年卒・森田)
担当：ウォークラリー・法匠会報
同上：安藤照代(67年卒・河原)
女性ネットワーク
同上：永田八朗(68年卒・岩下)
会計：法匠セミナー
同上：岡本 真(70年卒・宮脇)
新年会
同上：佐藤良一(75年卒・川口)
総務
同上：朴 賛弼(97年院博・山田)
教室
監事：猪野 忍(66年卒・大江)
同上：山辺豊彦(69年卒・青木)

**「メールマガジン」への移行に向けて
アドレスをお知らせ下さい。**

財政難のため、「法匠会報」の発行が困難になってきました。従来、年2回発行していたところ、今年は1回、将来は廃止の可能性もでてきました。近日中に「法匠会報」に代わって、各種イベント等、必要に応じてメールでお知らせする「メールマガジン」への移行を予定しています。ご希望の方は、下記メールアドレスをお知らせ下さい。
kak@nampoosha.co.jp

法匠セミナー予告

開催日 11月8日(土)
13:00~15:00 セミナー
15:00~ 懇親会
場所 小金井校舎マルチメディアホール
懇親会(同会場)



講師-1：古川修文(法政大学教授)
題目：沖縄の民家に学ぶ
内容：私の趣味は古臭い民家や町並みを見て歩くことで、研究テーマはその古臭さから新しいものを見つけ出そうという、いたってケチといおうか、ハナヤカ

さは一つもないのであるが、今の建築界は省エネだとか保存と活用だとか、まさにケチな単語であふれている。そんなわけで私は、「古い民家から何が学べるか」というダサイお話をご披露するつもりである。もっとも、もう一人の山辺講師は魅力あふれる内容であるから、大いに期待していただきたい。



講師-2：山辺豊彦(1969年卒・山辺構造事務所代表)
題目：木構造・大工塾の実践を通して
内容：建築家・丹呉明恭氏と木構造について勉強会を始めたのは1993年でした。

目的は従来の勤からの脱却でした。1998年からは「大工塾」として、大工と設計者(今年からは大学生も参加)がともに学ぶ活動を行っています。

勤からの脱却には、構造実験が最も有効な手段です。大工塾では耐力壁、仕口、継手など日常的に使用されているものを中心に実験を行っています。その成果は『住宅建築』1998年5月号~2000年1月号や、『建築知識』2002年9月号~12月号でも取上げています。

今回のセミナーでは、大工塾での活動内容と、それらの結果をもとにした木構造の学校建築への展開例をご紹介出来ればと思っています。

実行委員長：永田八朗(68卒 岩下ゼミ)
委員：朴 賛弼(97院卒 山田ゼミ)
鈴木竜子(91卒 青木ゼミ)

法政大学主催・法政大学大学院 エコ地域デザイン研究所 共催
国際環境シンポジウム

「エコロジーと歴史に基づく地域デザインへの挑戦」開催される

2003年6月7日(土)・8日(日) 法政大学ポアソナードタワー26階 スカイホール

トータルコーディネーター：陣内 秀信

6月7日(土)

14:00～ 開会セレモニー

第1部 オープニング・セッション

18:00～ アペリティフ(チーズ&ワインパーティー)

6月8日(日)

9:30～ 第2部 世界の「水の都市」の再評価と再生への課題

14:00～ 第3部 エコロジーと歴史に基づく地域デザインの思想と実践

17:00～ 第4部 エンディング・セッション

「グリーン・ユニバーシティ」を標榜する法政大学が「エコロジーと歴史に基づく地域デザインへの挑戦」をテーマに上記の日程で開催した。環境をキーワードに文部科学省COEに申請した学部横断的なプロジェクト計画の一環として、法政大学が主催、陣内秀信教授がコーディネーターとして企画した国際環境シンポジウムである。海外から6人の専門家を招き、主として建築学科の教員が日本の事例を紹介するという形式で行われ、約250人が参加し、盛況のうちに終了した。

本シンポジウム開催に当たっては、とりわけご理解を頂いた清成忠男総長、セクレタリー役を担った小金井事務局・総長室・国際交流センターの各事務職員の全面的な協力が得られたことを明記し、関係各位に謝意を表する次第である。

第1部 オープニング・セッション

開会セレモニーの後、講演1は、ヴェ



ネツィア建築大学ドナテッラ・カラビ氏(都市史)で、水の都ヴェネツィアについて15世紀からの歴史的側面と地盤沈下などの影響について講演。続く講演2はアジアからであるが、中国の上海同済大学の阮儀三教授がSARSの影響で来日できなくなったため高村雅彦助教授によって中国江南地域の水郷都市の保存と再生について代理講演が行われた。アメリカについては講演3において、MIT(マサチューセッツ工科大学)神田 駿 教授(アーバンデザイン)が、ボストンと姫路の水辺プロジェクトを紹介。ボストンではまちを分断していた高速道路を地下化して解決した事例が紹介された。

第2部 世界の「水の都市」の再評価と再生への課題 ヴェネツィア・バンコク・蘇州・東京

世界の代表的「水の都市」を比較し、近代化がもたらした諸問題を比較検討し、再生への方法を探った。

講演4では、チュラロンコン大学スワタナ・タダニティ助教授(都市計画)がバンコクの水辺地域の講演を行い、水路交

通網の利用が盛んな点や、洪水等の諸問題について説明された。講演5で、ヴェネツィア水都国際センター、リニオ・ブルトメツソ所長(都市計画)が、ターナーによる絵画が現実とどのような相違があるかというユニークなプレゼンテーションを用い、ヴェネツィアの再開発の将来性について述べた。東京については講演6において陣内秀信教授(建築史・都市史)が、里山に対して「里川」という語を用いて、高度成長期における東京の水辺空間の変化について述べた。

第3部 エコロジーと歴史に基づく地域デザインの思想と実践

エコロジーを生かした都市デザインについて、実績例を通し、今後の地域デザインのための方法を探ろうとするもの。

講演7でドルトムント大学客員教授エックハルト・ハーン(環境生態学)は、重工業的な開発から、風土・生態を生かした開発に転換する具体例を説明。講演8はローマ大学教授パラオ・ファリーニ教授(都市計画)で、歴史とエコロジーを重視したイタリアの田園部の計画2例について解説した。講演9は本学科 神谷 博 講師(建築生態学)が、東京の野川・多摩川などの住民参加による再生事例について講演した。

第4部 エンディング・セッション

総括コメントーターとして佐藤典人 本学教授(自然地理学)により、エコロジーと歴史を場所と時間の軸として自然地理学的な解釈を用いて全体を比較総括した後、各講演者によるコメントが述べられた。講演者の一致した意見として、このネットワークを大いに広げ、今後さらに発展させようという固い意思が確認され、盛況の内に終わることができた。

出口 清孝(建築学科・教授)

台風の中の... 「新入生歓迎ウォークラリー」



5月31日、季節外れの台風が襲来する中、新入生142名が卒業生40名に引率され、40のチームに分かれて、千駄ヶ谷、表参道、東京など7つの集合地点を出発し、3時間後に市が谷の法政大学へ集合する、街と建築を見学するウォーキングに参加した。

幸い雨は早めに通り返り、東京の街と建築をゆっくり楽しむことができた。初めて東京を歩く学生も多く、建築に対する興味をかき立てられ、先輩との会話を

楽しみながら街歩きを体験した。

集合地点の市谷キャンパスで、先生と卒業生を交えて懇親会が行われ、ウォーキングの体験を語りあった。

建築同窓会の将来像について

2002年度の建築学科同窓会活動のひとつとして、「同窓会の将来像について」の検討委員会が設けられたが、1年間議論が続けられ、その報告書が答申されて今年度の新しい役員へ引き継がれた。

検討委員会は2002年度の常任理事会において指名された広谷敬太郎(63卒)鬼木猛(59卒)、金子泰造(62卒)、大石満(62卒)、中田正二(64卒)、安藤照代(67卒)、市野彰俊(69卒)、梅松禮子(70卒)の各委員で構成された。

建築学科の同窓会の活動は、他科の同窓会と比べても活発で、さまざまな事業が続けられているが、それにもかかわらず会費の納入率は毎年のように漸減し、この状態

では、これまでのような活動は継続できないという状況となっている。

委員会では、議論を行ってきたほか、早稲田の稲門建築会、日大の桜門会、工学院の同窓会、芝浦工大の建友会、明治大学の同窓会などからのヒアリングを行って、各大学の卒業生組織の現状や財政状況などについて分析も行った。

報告書の中では、現状分析と卒業生の建築学科への帰属意識を高める必要があることや、地方での活動を活性化すること、建築学科との連携を強める必要があることなど、改善すべき事項やこれまでの活動で不足している事項などが指摘されている。

報告書の具体的な内容については、具体策を実施するに際して会報などをとおして紹介する機会もあると思われるが、同窓会としても、盛られた提言の実施に向けて重い宿題を負ったといえよう。

(中田正二 1964年卒)

お元気ですか

実測に取り憑かれて30年 金澤良春君

京都の名園を実測しまくった坂倉建築事務所の西澤文隆の名はよく知られている。その右腕となって、文字通り寝食を忘れて実測に駆け回ったのが、金澤君だ。その原点は学園紛争で閉鎖された大学に見切りをつけて、大江先生の指示で京都大徳寺黄梅院の実測に行ったことだったという。以後の人生はめくるめくような変転の連続だ。



どんな子ども時代を過ごしましたか？

親の実家は上田の紺屋町で江戸時代から続く染め物業でした。父が銀行員で転勤が多く、2年ごとに13回転校しました。中学時代は長野の山の中で、化石や土器の虜になったり、蝶や昆虫が友達代わりの自然の中での一人遊び、日が暮れると星をたよりに家路につく生活でした。このころ身に付いた知識や経験がその後の人間関係や実測に大変役立っています。

法政で建築を学んでいた頃は？

高校時代は浦和で過ごし、地学部でピートルズを聴きながら夜間観測をしました。特に夏のペルセウス流星群の観測は一晩中で、徹夜に強くなりました。長瀬の結晶片岩の観察も印象に残っています。

建築の専門課程が始まる2年では佐々木先生にサンテグジュペリ、ハンス・シャロウン、アスプルンド、などの話を聞き、3年では河原先生の前川国男、コルビュジエの話と、諏訪の地域計画の五千分の一の敷地模型をコルクで作ったときのことが思い出に残っています。

小能林先生はカーン、ヴェンチュリーの話をしてくれました。

同じ頃宮脇先生に連れられて六角鬼丈氏とヨーロッパを旅行。念願のサボア邸を実測しました。宮脇先生のおかげで、鈴木恂氏、林昌二、雅子氏、内井昭蔵氏、等の人々と知り合うことができました。

4年の頃は学生運動で大学は開店休業状態、大江先生のところで京都大学の熊野



実測のため黄梅院の屋根に上る

寮に泊まりながら、黄梅院の本堂の実測に参加しました。見学者の多い土日以外毎日、昼は実測、夜は製図の生活。寒い日に屋根裏の埃の中に足先を入れた時の温もりと、建設当時の屋根の反りを保つため垂木からぶら下がったままの縄が忘れられません。大学5年目は黄梅院書院の実測。大徳寺龍光院で座禅の修行を一ヶ月、般若心経を覚えました。このとき小堀遠州の建物に接し、それ以来遠州の研究がライフワークとなりました。

坂倉事務所時代と西澤先生との実測の話を聞かせて下さい。

卒業後1年間、河原先生の助手をしていて、大阪の坂倉事務所でバイトをしていた友人の紹介で西澤先生と実測の話をする機会があり、その翌日、坂倉建築事務所大阪に入所が決まりました。

芦屋三条南町に下宿先を決めると、偶然西澤先生の家と同じ町内で、寝坊をすると西澤夫人に起こされるという生活が始まりました。この時の下宿先は西澤先生の旧家と共に震災で倒壊し、消滅しました。大阪の6年間では仕事を覚えるために、手当無しで260時間残業をしたこともあります。土日は西澤先生との実測、毎晩12時過ぎに事務所を出て、3時ごろまで春日若宮、桂離宮、修学院離宮、大徳寺、妙心寺等の実測の図面を描く生活でした。結局、頑張りすぎて胃潰瘍になりましたが、西澤自邸の設計を最後に東京に転勤し、胃潰瘍の手術をして、胃を取りました。

西澤先生との関係は師匠と弟子を越えた親子のようなもので、先生が亡くなった今でもいつも背後で見守ってくれている感じがしています。実測をしながら先生から得た知識や、紹介されて出来た諸先輩との人間関係が、今大きな力になっています。

東京事務所に来てからはオズ・西友大泉店、ワシントンホテル、世田谷区民健康村、南大沢のベルコリーヌ等の仕事、胃潰瘍の手術、結婚、西澤先生の死、西澤文隆のディテールの出版、TOTOギャラリー間での西澤文隆の実測展等、あっという間の10年間でした。勿論この間も関西での実測は続いていました。

事務所独立後はどのように過ごしてこられたのですか？

設計の仕事ではカトリック御殿場教会が、竣工後、神父さんとピレネーのサン

略歴

1948年 長野県上田市に生まれる
1972年 法政大学建築学科卒（大江ゼミ） 助手
1973年 株式会社 坂倉建築研究所 大阪事務所 入所
1979年 同上 東京事務所へ転勤
1989年 一級建築士事務所金澤建築研究所 設立



西澤自邸



カトリック御殿場教会

ミッシェルキルクサ、トロネ、ヴェズレー、ラ・トゥーレット、ロンシャンを訪ねたこともあり、思い出に残っています。

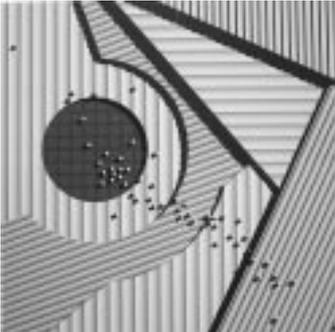
1983年にはラダックの寺院の実測、小堀遠州の孤蓬庵や高台寺の実測をして、1995年から20回、小堀遠州の特集記事を『ランドスケープデザイン』に連載、1999年には東工大の大学院で遠州の講義をしました。

今は6月28日から8月24日まで汐留、松下電工のナイス・ミュージアムで開かれる「西澤文隆実測展 建築と風景の関わり」の準備と実測図集を出版する準備に取りかかっています。又、ランドスケープデザインで小堀遠州の連載も来年2月から再開します。

編集委員会 小川 格（1966年卒）
小川かよ子（1967年卒）
永瀬克己（1968年卒）
石黒豊明（1972年卒）
安井太郎（1981年卒）

第6回 法匠展・50 紙上展

第6回法匠展50は6月13日から17日まで、東京武蔵野市の武蔵野芸能劇場2階ホールで行われた。今年は、先生と学生、卒業生合わせて31名が集い、実に多彩な作品が会場いっぱいに花開き、楽しい交流がもたれた。今回は出品作品のなかから各自1点ご紹介します。腕に覚えのある皆さん、来年は気軽に参加してみませんか？
連絡先：プランーク設計：近藤一郎（電）03-3473-9506、（F）03-3473-9526、email：kon-kn-1@mx4.mesh.ne.jp



大江 新（法政大学教授）実現することのない「場のイメージ」を顕在化させる機会。



中山繁信（1966年卒宮脇ゼミ）水彩の小品2点。習作です。



安藤直見（法政大学教授）西洋広場のCubic VR。マウスの操作で広場の360°展望が。



古川修文（法政大学教授）「埼玉の民家」。色鉛筆にアクリル絵具を併用した自己流。難しくも楽しいひと時。



竹内裕二（法政大学講師）イタリアと南フランスをひとり旅して安宿の夜、真っ暗な中に星だけが光っていた。



渡邊真理（法政大学教授）「呉牛喘月」。書。



山辺郁代（1969年卒青木ゼミ）「旅人がへらす」西脇順三郎の詩。書が大好きです。



吉江庄蔵（法政大学講師）アクリル彫刻「風の柱」。



武者英二（法政大学名誉教授）「瀑布昇落の図」。昇る鯉五匹、落ちる鯉五匹、どちらもよいという心境です。



近藤一郎（1971年卒佐々木ゼミ）「往くとき、帰るとき」韓国には、遠い日本の原風景が残っています。



宮之原嘉明（1969年卒河原ゼミ）「栗木の蔵」旅に出たときのスケッチが楽しみ。水彩。



中村守利（1984年卒河原ゼミ）「アルハンブラ宮殿」。9年前に訪れて以来、ずっと寝かしてきたテーマ、やっと描きあげました。



茂呂 肇（1967年卒篠原ゼミ）「思うままに」。思うままに、心のおもむくままに土に向かって自分です。



猪野 忍（1966年卒大江ゼミ）少なくなってきた水辺をテーマにして追いかけています。水彩。



梁 暢根（大学院1年）「はじめ」。建築の1年生の授業中のスナップ。先生のサポートで授業を手伝っている。



吉田 弘 (1964年卒山田ゼミ)「自由の条件」マリオネットの糸を切ってみた。自由?油彩。



永瀬克己 (1968年卒河原ゼミ)「千手観音」多忙のなか静かな対象に取り組んでみたくなった。墨絵。



川元信泰 (1975年卒佐々木ゼミ)「まつり」。私が版画家として認められた、忘れられない作品です。木版。



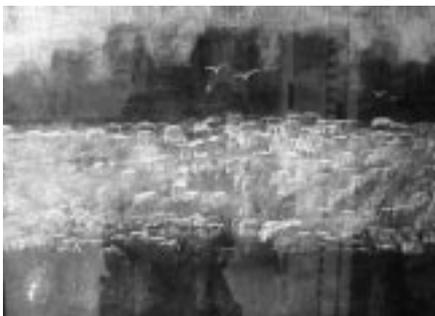
寺本嘶子 (1968年卒大江宏ゼミ)「MA」。間をテーマにした音の作品。鉛筆。



斎藤悠太 (学部3年)「ガンバレ」。あなたは、最近、空を見えていますか?



安藤照代 (1967年卒河原ゼミ)「榎の木と洋館」。描いているとふと眠りに誘われるような風景でした。墨彩。



小倉洋一 (1965年卒犬塚ゼミ)「輝(かがやき)」妙義。日本画(岩絵具)による作品2点のうちのひとつ。



会場風景



石川弥栄子 (1963年卒大江宏ゼミ)古い作品をもってきたら、学生さんが生まれる前の作品でびっくり。



小宮誠夫 (1959年卒)「廣徳寺庫裏」。軒裏の垂木がとても美しかったので。



鬼木 猛 (1959年卒森田ゼミ)「イングランドの民家」「小樽運河」。皆さんの作品を見て刺激を受けるのが楽しみ。



河原一郎 (法政大学名誉教授)名優は歳をとると汚れ役をやりたくなるのね、とはわがカミさんの評。



山本秀代 (1967年卒宮脇ゼミ)「薔薇」。バラをイメージしてつくった陶器です。



深田裕也 (大学院1年)「フィリピンの断片」。建設ボランティアでフィリピンへ行ったときの写真です。



小川 格 (1966年卒森田ゼミ)「夕焼けの古河邸」に挑戦。夕焼けの方が主役になってしまいました。



山崎勝哉 (1966年卒大江宏ゼミ)「本土寺の初夏」。絵を描いている時が私の「癒し」の時です。水彩。

法

建築学科のホームページをネットサーフィンしてみました



皆さんは建築学科のホームページをのぞいたことがありますか？今日、インターネットによって大学の現状は広く公開されています。きょうは私が皆さんを法政大学建築学科にご案内しましょう。

まずは法政大学 <http://www.hosei.ac.jp/> からスタート！

学部案内から...

<http://www.hosei.ac.jp/gakubu.htm> ~ 小金井キャンパス工学部へ、さらに...

<http://www.hosei.ac.jp/ceng/index.html> ~ 建築学科と波に乗り、設置科目、授業内容、研究室、と入っていくと建築学科の内容とおなじみの先生方の研究テーマが見られます。

いちど法政大学まで戻って、サイトマップ~リンク~学部ゼミナール・研究室リンク~工学部と来ると建築学科川口衛教授 <http://www.c-channel.com/c00020/> のホームページにたどり着きます。うーん、他の先生の研究室に行くにはどうすればよいかなあ...

小金井キャンパス工学部へもどると... <http://www.hosei.ac.jp/ceng/index.html> の紫色でアンダーラインの入った小金井キャンパスTOPと書かれた所があります。ここをクリックすると初めて本当の小金井キャンパス

<http://www.k.hosei.ac.jp/> にたどり着きます。これですぐに市ヶ谷から小金井にやってきました。建築学科~学科の運営するHP

<http://www.k.hosei.ac.jp/ceng/arch/> という、安藤先生の管理するサイトに行くと、各研究室のオフィシャルホームページと思われるものが並んでいます。

後藤剛史研究室

<http://www.k.hosei.ac.jp/ceng/arch/goto-lab/001.html>

出口清孝研究室

<http://www.k.hosei.ac.jp/ceng/arch/deguchi/index.html>

安藤直見研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/>

中田正二講師（建築生産担当）

<http://www.asahi-net.or.jp/rp6s-nkt/>

そして、大学院生による研究室紹介

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/link/> という、タイトルの中身が院生が作ったらしい各研究室のホームページのようです。

「大学院生による」と記されています。それでは各研究室のアドレスをご紹介しますおきましょう...

以下は大学院生による研究室紹介

陣内研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/jinnai/>

大江研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/ohe/>

出口研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/deguchi/>

渡辺研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/watanabe/>

吉田研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/yoshida/>

古川研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/furukawa/>

永瀬研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/nagase/>

高村研究室

<http://www.andos.k.hosei.ac.jp/takamura/>

...というわけで、皆さんもときどき教室の様子、先生方の研究の様子をご覧ください。

「大江宏賞」創設へ

ながらく懸案となっていた「大江賞」について大江宏ゼミ会として提案をまとめ、建築教室に提案した。現在教室側の検討を待っている状態ですが経過を報告します。

提案の経緯

建築同窓会は、昭和59年3月、大江宏先生の定年退任に当り、「大江宏の会」を発足した。会は、1.記念シンポジウム、2.記念出版物の刊行、3.記念品の贈呈、4.大江賞の創設、の4つの記念事業を行うべく、建築学科教職員および卒業生に広く賛金をお願いした。

その後他の事業は終了したが、4.大江賞の創設だけが残った。以来、大分時を経ましたが、このほど建築学科教室に対し、要旨以下のとおり「大江宏賞」の創設、実施を提案した。

提案の骨子

主旨：法政大学建築学科大学院生のうち、設計課題において優れた成績を収めた学生を毎年1名選定し、賞を与える。

賞の内容：記念メダル及び副賞として一定の賞金を与える。

賞の運営：大江宏賞は建築学科教室と大江宏賞運営委員会の共同事業とし、双方で委員を選び、協力して運営する。

基金の管理：建築同窓会のなかに「大江宏賞運営委員会」を新たに組織し、基金の管理に当る。

大江宏ゼミ会（代表 高辻秀朗）からの提案の骨子は以上であるが、大学院のレベル向上のため、現在、教室で前向きに検討していただいている。近日中に、発足が期待される。（金子泰造 1962年卒）

私の逸品

思い出の真っ赤なバイク

石黒豊明（1972年卒 IMO研）

イタリー製の真っ赤な50ccのナセッティーが、高校の寮の事務員さんから500円で譲り受けた初めてのバイク。

カブのスクラップ2台から1台を組み立てたり、友人のお下がりや中古車に乗り続けて、初めて新車を購入したのが30歳を過ぎていた。世界中でもっとも白バイの台数が多い、農耕馬の様にタフなBMW R80。20年間乗り続けて2年前に現在の真っ赤なBMW R1100Sに乗り換えした。

20年間の技術の進歩は初老の私を20代の若者に変えてくれた。その乗り心地は一瞬で車の流れから脱出して、安全な領域に連れていってくれる。仕事帰りの鶴見川を渡って5k程の走り慣れたコースでの全開走行、一日の疲れを吹飛ばしてくれる年寄りのマリファナ。

ときには、東京に仕事で出かけると、帰りは中央高速から山中湖、御殿場、箱



根を通して横浜へ帰ってくる。仕事をしているより、バイクに乗っている時間の方が圧倒的に長い。マックの前に座って指先しか使わない仕事と現場をつなぐ大切な相棒。60歳まで乗り続けたら次のタイムマシンに乗り換えたい。今度は30歳ぐらいまでしか若返れないかもしれないが...

ある日突然、不幸はやってきました。仕事で遅くなって帰ろうと思ったら、真っ赤なバイクが盗まれていました。半年たっても出てきません。タイトルに思い出が付くことになりました。

法匠女性ネットワーク

高齢期の住まい方、暮らし方 【多様な選択肢をいくつか知っています？】

今回の先進事例訪問先はグループホーム（擬似家族数8,9人単位の痴呆高齢者の住まい）とユニットケア型の特別養護老人ホーム「けま喜楽苑」。全室個室、入居者と職員



の割合が「2：1」という充実したケア環境、まさに入居者は幸運な方々で、入居待機者が492人と聞きました。

「職員が1人で10人の様子を見ることができる。しかし、10人で100人を見ると全員の顔を覚えられないなど難しい。小さいことは良いことです。」と暮らしの質にこだわった介護を実践する市川禮子苑長。10人ほどのユニットは個室のほかにセミパブリック空間の食堂やリビング、2：1の職員配置等が特徴です。

1997年、「喜楽苑」が運営する被災高齢者のための「24時間ケア付き仮設住宅」と「芦屋喜楽苑」を女性ネットワークの仲間と訪問以来、目が離せないのが各地

で運営される「喜楽苑」シリーズです。尼崎市の住民運動から誕生した社会福祉法人、「喜楽苑」の運営から20年、4件目の見事な成果です。

その人らしい高齢期の“暮らし”の実現に力を注いだ故外山義先生の監修、建築と言う「器」を通して、その理念に触れる良い機会となりました（詳細はTOTO通信2002夏号参照ください）。（寺本晰子）

ノーマライゼーション環境・公開研究会（日本建築学会）に参加して

近年ようやく一般化して来たノーマライゼーションの考え方は交通バリアフリー法の制定、ハートビル法の改正、介護保険の見直し等、法整備が進みつつある中で「法制度の最新動向とユーザー参加による計画の意義と役割」と題して公開研究会が開かれた。

まず会場となった堺市にある国際障害者交流センター「ビッグアイ」の館内を設計参加した田中直人氏の説明を受けながら見学。ここは国連・障害者の十年を記念して障害者の「完全なる参加と平等」の実現を図る為に、つまり誰でもが使える

る文化施設を目指した宿泊・多目的ホール・研修室等からなる施設である。床



のテクスチャーを変え、色を対比させて点字ブロックの代わりにする等、随所にバリアフリーの先進的な工夫が見られた。研究会では車椅子の川内美彦氏より「ユニバーサル・デザインは消費者運動であり、障害者は生活者である」という利用者側の視点に立った草の根の市民がレベルアップして行くことが必要」とのお話が非常に印象に残った。（小川かよ子）

法匠女性ネットワークより

法匠女性ネットワークが発足して8回目の総会が来る7月4日に開催されます。昨年の紙面で報告されましたように、これまで石川弥栄子さん（63年卒）を代表に色々な活動を行って来ました。今回役員交代に関しては複数代表制を提案し、これによって一人一人の負担をより軽く活動しやすい体制にして行きたいと思っています。

また、小金井祭参加を軸に今年度活動を計画し、より多くの同窓生の参加を呼びかけていくつもりですので、同窓会の皆様よろしくお願い申し上げます。

（後藤真弓）

身近かな本棚

日本の伝統的都市空間

デザイン・サーベイの記録
A3判二分冊、箱入り、45,000円
著者：宮脇 檀・法政大学宮脇ゼミ
出版：中央公論美術出版
編集委員：中山繁信・山本秀代・仁科和久・高尾宏・小島健一・富田悦子・清瀬社一

宮脇ゼミナールが卒業論文の一環として、1966年から7年間にわたり、毎年日本各地の伝統的街並や建物を、100人を越えるゼミ生達が実測調査・記録してきたデザインサーベイがついに『日本の伝統的都市空間』として中央公論美術出版から出版されました。

内容は、実測図を収録した「図面篇」と、宮脇先生が執筆した解説と当時の写真を収めた「解説篇」との2部構成で、「図面篇」は、当時の街並の全体屋根

伏図・全体平面図・立面図、平面詳細図・断面図を緻密な実測調査図により伝えており、客観的資料となっています。対象地域は、「デザイン・サーベイ」の始まりとなった、「倉敷」を皮切りに、馬籠・萩・五箇荘・琴平・稗田・室津・篠山の計8地区です。

出版の経緯
宮脇先生が亡くなられた後、ゼミ生OBにより出版までこぎつけましたが、編集委員の情熱に反し作業の方は一筋縄ではいきませんでした。あまりに図面の傷みがひどく、まとめていくのは気の遠くなる作業でした。それでも、35年ぶりに見た図面は、CAD図面に見なれてしまった私



達には非常に新鮮に写り、鉛筆ならではの勢い、学生ならではの若さの勢いなどを懐かしみながらの楽しい作業となりました。客観的資料ということだけではなく、「デザイン・サーベイ」という、とてつもなく時間と人手がかかる手法だからこそ見えてくるものがある。

出版後の反響は大きく、大判の書籍としては稀な、1ヶ月後の再版となりました。

（山本秀代 1967年卒）

「水みち研究会」が 第5回 日本水大賞を受賞

健全な水循環の再生を目指し、環境、資源、文化等で水の役割を見直し支援する、第5回日本水大賞の厚生労働大臣賞を神谷博君が主宰する「水みち研究会」が受賞し、6月17日科学技術館で表彰式が行われた。

神谷 博

（1974卒・設計計画水系デザイン研究室）

このたび、私が代表をつとめる「水みち研究会」が、第5回日本水大賞の厚生労働大臣賞を受賞することができ、メンバー一同、大変ありがたく思っています。水みち研究会とは、湧水や井戸を保全するために、地下水の水みちを調査研究している市民団体です。野川や矢川など武蔵野台地を主なフィールドとしていますが、全国の調査も行なってきました。

15年にわたる活動がようやく一定の評価を得るようになったことに、時代の流れを感じます。水みち研究は、まさに水循環の一端を担うものであり、今後は都市計画の中に地下環境を計画論として位置づける研究に取り組んで行きたいと思っています。

介護福祉ハンドブック 特別養護老人ホームにおける 職員参加の施設建築計画

一番ヶ瀬康子監修
小川信子・小川かよ子・青木江美著
A5判/134頁/一橋出版/900円

「利用者にとって暮らしやすい生活の場」としての特養ホームを計画するには、設計者、事業者、実務担当職員が各役割を認識し

協力して計画を進める必要がある。本書は福祉事業者や福祉及び建築を学ぶ人達を対象として、特養ホーム・スマイルハウス（小川建築工房設計）を事例に、良い施設を造るための計画プロセスと具体的な打合せ例等を分かり易く著したものである。

（小川かよ子 1967年卒）



卒業設計公開講評会2003

公開講評会は、2003年2月1日(土)1時より6時まで、小金井キャンパス西館のマルチメディアホールにおいて開催された。講評・審査には建築学科教員、そして特別審査員として現在活躍している建築家の千葉学氏(東京大学助教授)、小嶋一浩氏と共にパートナーを組んでいる赤松佳珠子氏(建築家)、そして若手のホープ手塚貴晴氏(武蔵工業大学助教授)を招いている。講評の対象は、116人の卒業設計のなかから厳選された12作品。発表者は、壇上に図面と模型を運びこみ、CGなどの視覚効果を添えて作品をアピールした。

短時間の発表でも先生方の指摘は核心を突いていく。特別審査員の総評で千葉氏は、「プレゼンのレベルは高いが、実感がない。それは日常の分析が不足しているから」、手塚氏は「卒業設計は一着きてまわる。せめて楽しく発表せよ」、赤松氏は「何をやりたいのかを伝えよ」とアドバイスをした。講評を聞いた後輩達には強い刺激になったようです。



レセプション開催 講評会の後、学生ラウンジでレセプションを。先生方、同窓、他大学を含む学年をこえた学生達が集まりました。ここで受賞者が発表されました。

特別審査員賞 赤松佳珠子賞 「ブチアキナイ」 斉藤直美(大江) 千葉学賞 「Blind」 戸村香織(大江)、手塚貴晴賞 「BOOK CHANNEL」 鈴木淑美(渡邊)

卒業設計賞 「C to Z」 農本美沙(富永) 「BOOK CHANNEL」 鈴木淑美(渡邊) 「ブチアキナイ」 斉藤直美(大江) 「西郷坂」 古郡宏光(渡邊)

今回の講評会でも、昨年と同様に企画・運営に大学院生が積極的に参加、会は同窓会や協賛企業などによって支えられています。ポスターやプログラム制作、そして講評会、レセプションの司会、会場設営など全て大学院生が担当、院生パワーが発揮されています。



学外卒業設計展等 法大代表決まる

卒業設計審査と卒業設計公開講評会を経て、次の学生が学外で行われる各種展覧会や出版物掲載の法政大学代表に決まりました。

JIA「BOOK CHANNEL」 鈴木淑美(渡邊) 「emergency housing」 林 泰寛(永瀬) 日本建築学会 「C to Z」 農本美沙(富永) レモン画翠展・「西郷坂」 古郡宏光(渡邊) レモン画翠CG展・「BOOK CHANNEL」 鈴木淑美(渡邊) 近代建築掲載・「ブチアキナイ」 斉藤直美(大江)

法政大学、日本建築学会賞ダブル受賞

陣内秀信教授と富永謙教授。そして非常勤講師の佐々木睦朗氏も

2003年日本建築学会賞(論文・作品・技術・業績)の4部門で17件が選ばれた。その中で論文部門の建築歴史・意匠分野で陣内秀信教授が「イタリアおよび日本の都市史に関する研究」で、富永謙教授が作品部門「ひらたタウンセンター」でともに日本建築学会賞を受賞した。ひらたタウンセンターは昨年開催の「匠匠セミナー」でスライドをもとに講演されている。また構造関係の授業を担当している非常勤講師の佐々木睦朗氏も伊東豊雄氏設計の「仙台メディアテーク」の構造設計で伊東氏とともに作品賞を受賞した。考えようではダブルではなくトリプル受賞なのかもしれない。このことは強力なインパクトを法政大学が発したことになるであろう。

日本建築協会の第3回読者と選ぶ「建築と社会賞」 兵庫県西播磨総合庁舎一設計：設計組織ADH+法政大学渡邊研究室、兵庫県企業局が入選しました。

建築学科学位授与式晴れやかに
そして熱き謝恩会は自由学園で

2002年度建築学科卒業生は、学士150名(男116、女34) 大学院工学研究科は修士47名(環境3,構造6,計画38)、博士1名、計198名が以上の学位を授与されました。卒業・修了おめでとう。既に入会している人も含めて建築学科同窓会へようこそ。卒業式は日本武道館、学位記交付は小金井キャンパスで行われました。学位記の交付は、建築学科主任の陣内秀信教授、大学院は専攻主任の出口清孝教授から一人づつ手渡されました。工学部同窓会からは、成績優秀者として褒賞が次の2名に与えられた。金子通子(古川) 上林有希(川口・阿部)

謝恩会

3月24日6時より、卒業生主催(幹事一陣内ゼミ)により、目白のF.L.ライト設計の自由学園において、お世話になった先生方・同窓会役員を招いて謝恩会が開催されました。先生方や同窓会長からお祝と激励の言葉、そして学生たちから先生評と花束、思わぬプレゼントまであり、思い出深い卒業謝恩の会となりました。

2003年度 春

建築学科・大学院新入生入学

4月3日(水)日本武道館において2003年度の入学式が行われました。桜の花に祝福されて建築学科140名、大学院修士53名、計193名の新入生が入学しました。入学おめでとう。学部新入生とは教員・OBと共にウォークラリーで大雨の中、都心を歩きました。

新任教員紹介

以下の各氏が新任非常勤講師として下記科目を担当します。

【学部】 建築構造力学1A・1B(1年)：西園博美氏、 建築施工(3/4年)：池田宏俊氏、 建築設計法(3/4年)：遠藤勝勲氏、 建築構造解析(3/4年)：立道郁生氏

「第16回建築環境デザインコンペティション 学生賞」に院生の面田・平澤津君入選

標記のコンペに大学院生の面田晋太郎・平澤津有希子君(大江)が入選した。アイデアは目に見えない電磁波という恐ろしさを視覚化し、再利用するというもの。プレゼンはかなり細かな学術データをもって説明している。



第22回 総合報道賞2003 ビジュアルデザインコンペ「新たに期待できるOOHメディア(広告媒体)」に日下愛さん佳作

大学院1年の日下愛さん(渡邊) / (共同制作 菅田洋司)が標記のコンペで佳作を受賞しました。今年は、最優秀賞該当者なし、佳作3作品、アイデア賞1作品でした。アイデアは都市生活者に不足しているマイナスイオンを霧を発生させることによって補うとともに、そこに映像を映し新しい広告媒体としている。



JIA第12回東京都

学生卒業設計コンクール 鈴木さん銅賞

標記コンクールに代表としてエントリーした鈴木淑美さん(渡邊)が公開審査を経て銅賞を獲得した。タイトルは「Book Channel」、映像で本の魅力を伝え、実物へとアクセスする景観建築。屋根の上が公園となっており、歩くことが楽しい空間構成と景観をもっている。



「建築設計製図学年毎の講評会」

今年はファイナルレヴューウィークを前期の終わり7月7日の週に設けてあり、各学年・大学院までの設計製図の総合講評会がオープンになっている。7/8(火)~10(木) 工学部講堂。

「建築実務実習」希望者最多、夏休みと春休みに。同窓生の協力を!

大学は7月31日~9月15日まで夏季休業。休みも有意義にと「建築実務実習」を望む学生(3年生中心)が増え、今年度の登録者は128名になりました。同窓生の協力なくして多くの学生の希望に応えることはできません。今年度ご指導をお願い致します。

担当：渡邊・古川・阿部(中澤)・永瀬(Fax042-387-6125宛)